**身体障害者補助犬の専門職のかかわりに関するアンケート調査**

社会システム㈱では、**厚生労働省の「令和5年度障害者総合福祉推進事業」**の採択により、社会福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歩行訓練士等のいわゆる**専門職の方々の「身体障害者補助犬」（盲導犬・介助犬・聴導犬）へのかかわりのあり方**について研究しております。

つきましては、専門職の皆さまに、障害者が補助犬との暮らしを選択肢のひとつとして考える段階でのかかわりのあり方や、補助犬に対する認識についてお伺いさせていただきたく、アンケート調査をお願いしております。

身体障害者補助犬の普及に向け、どうか本アンケートへのご協力を賜れれば幸いです。

なお、本調査の結果は統計処理を行って集計・整理し、本研究以外の使用はいたしません。

　回答受付期間：**2023年10月23日（月）まで**

　調査機関：社会システム㈱　担当：白木、牧村、高光

　電話：03-5791-1133　MAIL：bf3@crp.co.jp

**《1.あなたの属性に関する設問》**

問1-1　あなたの今の職場での職種は何ですか。【現在主な仕事としている職種１つを選択】

①理学療法士　②作業療法士　③言語聴覚士　④社会福祉士　⑤歩行訓練士

⑥その他

問1-2　あなたの今の職場及び職域について回答例を参考にお答えください。【複数ある方は、代表的なもの】

|  |  |
| --- | --- |
| 職場・施設 | 職域・部門 |
| 例：病院  　　相談支援センター | 例：回復期リハビリテーション  　　ケアプラン作成・相談 |

**《2.補助犬への認識に関する設問》**

問2-1　あなたは補助犬の種類や役割について知っていますか。【補助犬の種類ごとに一つを選択】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | ①名前・役割ともに知っている | ②名前だけ知っている  (役割は知らない) | ③名前・役割ともに知らない |
| 盲導犬 |  |  |  |
| 介助犬 |  |  |  |
| 聴導犬 |  |  |  |

問2-2　あなたは補助犬導入のためのプロセスを知っていますか。【一つ選択】

①知っている　②具体的には知らない　③知らない

問2-3　あなたは身体障害者補助犬法の内容を知っていますか。【一つ選択】

①　法律もその内容も知っている　②　法律は知っているが内容までは知らない

③　法律も内容も知らない

問2-4　（問2-2・2-3のいずれかで①を回答した方のみお答えください）

補助犬について聞いたり学んだりしたことがある場面はどこですか？【複数回答可】

①大学や専門学校、養成学校等の授業

②研修、イベント  
（具体的にはどのような研修・イベントですか：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

③日々の業務　④国家試験等資格取得の勉強　⑤業務外の自主的な学習

⑥その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

**《3.補助犬とのかかわりに関する設問》**

問3-1　あなたの仕事の中で、「障害者の自立支援のために必要な補装具の使用をはじめとした生活のあり方について具体的な相談に乗る、助言をする」ことがありますか？【一つ選択】

①これまでにしていたことがある・・・問3-2へ

②現在、している・・・問3-2へ

③今後していく予定がある・・・問3-6へ

④今も、今後も、する予定はない・・・問3-6へ

問3-2　（問3-1で①・②と回答した方のみお答えください）

「相談に乗る、助言をする」のは具体的にどのようなタイミングですか？【最も多い機会を１つ選択】

①必要な補装具の使用にかかる相談のとき

②自立にかかる支援を行った後に参考として

③その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

問3-3　（問3-2を回答した方が引き続きお答えください）

「相談に乗る、助言をする」中に、補助犬の使用については含まれていますか。【一つ選択】

①含まれている・・・問3-4へ　　　　②含まれていない・・・問3-5へ

問3-4　（問3-3で①と回答した方のみお答えください）

補助犬の使用についての相談や助言は具体的にどのような内容でしたか？【自由記述】

|  |
| --- |
| （自由記述） |

問3-5　（問3-3で②と回答した方のみお答えください）

補助犬の使用についてが含まれていないのはなぜでしょうか？【一つ選択】

①補助犬についての知識がないから

②補助犬使用がその障害者に適切であるかを判断できないから

③補助犬使用についてのニーズがないから

④その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

問3-6　あなたは補助犬の訓練や認定に関わったことがありますか。【一つ選択】

①関わったことがある

②現在関わっている

③これから関わる予定がある

④今後も関わる予定はない

問3-7　あなたと関わりのある人（友人・知人、患者等）には、補助犬ユーザーはいますか。【一つ選択】

①いる

②いない

**《4.補助犬の問い合わせや専門職の役割に関する設問》**

問4-1　あなたが専門職として障害当事者の方から、（補助犬と暮らしたいという）問い合わせを受けたことはありますか？【一つ選択】

①ある　②ない

問4-2　あなたが障害当事者から補助犬について相談を受けたり、勧めたりする場合、専門職として以下のような役割を果たすことが望ましいと思いますか。【各項目に対していずれか選択】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | はい | いいえ |
| ①どういう人が補助犬を持つことができるのか、情報提供ができること |  |  |
| ②補助犬を使用することが適当と思われる障害当事者を見極められること |  |  |
| ③訓練や認定など、補助犬と暮らすまでにどんな過程があるのか、情報提供ができること |  |  |
| ④費用など補助犬がどのように貸与（譲渡）されるのか、情報提供ができること |  |  |
| ⑤補助犬と暮らすにあたり誰に相談すればよいのか、情報提供ができること |  |  |
| ⑥その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |  |  |

**《5.補助犬を学ぶ機会に関する設問》**

問5-1　あなたがこれから補助犬について学ぶ機会がある場合、どのような方法で学ぶことを望みますか。【一つ選択】

①職場から派遣される研修会

②職場で受けられるe-learning

③相談や助言時に対応できるマニュアル

④相談や助言時の対応を簡潔にまとめたリーフレット

⑤その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

**《6.今後の普及啓発に関する設問》**

　補助犬と暮らすことで、生活の質の向上が期待できる障害者もいます。こうした可能性に対して、専門職を含めた様々な関係者からのアプローチが充実することは、障害者が補助犬と出会えるチャンスが増えることにつながるのではないかと考えられます。

問6-1　補助犬のさらなる普及啓発に向けて、専門職ができることや専門職の役割と思うことについて、あなたのお考え・意見をお聞かせください。【自由記述】

|  |
| --- |
| （自由記述） |

以上